２０１９年（平成３１年）３月２７日　水曜日

デーリー東北　１２面　掲載

光星打線 力負け

第91回 選抜高校野球大会 第4日

散発3安打、不完全燃焼

選抜高校野球大会第４日は26日、甲子園球場で１回戦３試合が行われ、東邦（愛知）広陵（広島）筑陽学園（福岡）が２回戦に勝ち上がった。東邦は21世紀枠で初出場の富岡西（徳島）に３－１で競り勝った。１－１の七回に松井が勝ち越し打を放ち、石川は毎回の11奪三振で完投した。広陵は八学光星を２－０で下した。河野が散発３安打に抑えて完封。８三振を奪い、打線が五回に挙げた２点を守り抜いた。初出場の筑陽学園は福知山成美（京都）に３－２で勝利。２－２の七回に野田の適時二塁打で勝ち越した。西が２失点で投げ抜いた。

1回戦（28万、2万九千）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
八学光星	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広陵（広島）	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2

（八）後藤－太山
（広）河野－岡崎
▽二塁打　秋山2（情打）、原、河野2（盛望、勝井）（1）
▽失策　澤能、中嶋、宗山
▽試合時間　1時間55分

【八学光星】000 000 000
【広陵】000 002 00×

	打数	安打	打点	三振	四球	死球	犠打	盗塁	残塁
【八学光星】									
伊藤蓮（左右）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
原（中）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
後藤（投）	2	0	0	1	0	0	0	0	0
秋山（左）	3	1	0	0	0	0	0	0	1
太山（捕）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
宗山（遊）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
岡崎（一）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
盛望（右）	2	0	0	1	0	0	0	0	0
勝井（1）（右）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情打	1	0	0	1	0	0	0	0	0
計	23	1	0	7	0	0	0	0	1
投手	回	打者	球数	安打	本塁打	四球	死球	三振	失点	自責点
後藤	8	29	108	3	0	0	0	7	2	2
平野	1	4	15	0	0	0	0	1	0	0

【広陵】000 000 010
【八学光星】000 000 000

	打数	安打	打点	三振	四球	死球	犠打	盗塁	残塁
【広陵】									
澤能（遊）	3	0	0	0	0	0	0	0	0
中嶋（中）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
宗山（遊）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
勝井（1）（投）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岡崎（一）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
盛望（右）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
原（中）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
後藤（投）	2	0	0	1	0	0	0	0	0
秋山（左）	3	1	0	0	0	0	0	0	1
太山（捕）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
伊藤蓮（左右）	3	0	0	1	0	0	0	0	0
計	29	1	0	8	0	0	0	0	1
投手	回	打者	球数	安打	本塁打	四球	死球	三振	失点	自責点
河野	9	34	108	3	0	0	0	8	0	0

【評】八学光星は散発3安打で完封負け。2点差の八回に四球に敵を出塁させ、2死二、三塁の好機を得たが、凡打に倒れ得点できなかった。先発の伊藤蓮は、一回に無安打満塁の危機を脱するなど粘投を続けたが、五回に谷びだ5安打で2失点した。広陵は、先発の河野が8奪三振で完投。打線も五回の好機を仕留めた。

完投した八学光星の後藤丈海

試合を終えてスタンドの応援団にあいさつした後、戻ってくる八学光星ナイン

焦点

後藤 "粘投" 報われず

強打を誇る光星打線が、わずか3安打に抑え込まれた。力を出し切れなかった。思い通りのプレーができなかった！。試合後、口をそろえた選手たち。事前に警戒して対策を講じていたはずの広陵のエース河野佳を、最後まで攻略できなかった。

初回、先頭打者の伊藤大将がいきなり三振。速球が武器で、勢いのある前評判の高い投手だったが、「思っていた以上のスピードだった」（伊藤）。

中盤以降、チームは狙い球を直球からスライダーに変えたが、それでも捉えられなかった。初回にチーム最初の安打を放った武岡龍世主将も、その後は沈黙。苦手な内角を攻められ、対応できなかったという。

相手は速さに加え、気合の入った投球だった。伊藤は「冷静に見極められず、振らされた」と打席を振り返る。「本当に試合をしたのかというくらい、終わるのが早かった。情けない」。気持ちの面でも負けていた。

目標に掲げた「平成最後の日本一」はかなわなかった。武岡主将は「強い投手に打ち勝つことができないと、全国で勝ち上がっていけない」とこれからを見据える。「速球に振り負けないスイングスピードが必要。チームで勝てるように、打撃を鍛え直したい」と夏に向けて力を込めた。（笹村静）

○…打線がつながらない苦しい展開の中、2失点で完投したエース後藤丈海。先制点を奪われても、何度走者を背負っても、最後まで1人でマウンドを守り続けた。

二回、広陵に2連打を浴びて無死満塁とされる窮地を迎えたが、「全て場に練習でできたから、強い気持ちで投げられた」。後続を三振と凡打に打ち取る勝負強さを見せつけた。

一方、強気な力みにもつながった。制球が大きな武器だが、この試合は球が先行。「めったに出さない」（後藤）四球で先頭打者を歩かせる場面が目立ち、「先頭を出してはいけない、という気持ちが強過ぎた」。

気負い過ぎてしまったことが、フォームの崩れにつながった。相手に得点を許した四回も、フォーム自体が乱れて打ち込まれたという。「心で思っていることと、体の動きがつながらなかった」と反省しきりだった。

4回、広陵無死一塁、八学光星の武岡龍世がショートゴロをさばき、二塁を踏んで一塁へ送球し併殺を決める

3併殺 堅守光る

○…野手陣の堅守が、粘り強い投球が持ち味の後藤丈海を支えた。

相手から3併殺を奪った。

「守備は自分たちらしさを出せた」と振り返る井宗主将。併殺を取ったのは、いずれも先頭打者が四球で出塁した場面。「守備の面でも、秋よりいいプレーができた」と武岡。少しは成長できていると思う」最後は前を向いた。

【八学光星―広陵】9回、八学光星2死で下山昂大が右前打を放つ

下山 手応えつかむ一打

○…広陵の主戦河野佳に散発3安打と抑え込まれた八学光星。九回に6番・山下山昂大が意地の一打を放ったが、「チャンスで1本出なかった。勝負強さがない1年生に負けてない」と悔やんだ。

最速で150キロをマークした直球と「予想以上に曲がり、曲がり方も種類」というスライダーに苦しんだ。最後の打席で狙いを絞ったストレートを右翼に見舞った。

島袋、好機で意地

○…攻めあぐねていた光星が、得点の好機を得たのは八回1死一、二塁から。島袋洋奨の打球が相手のエラーを誘い、この試合唯一の二塁走者を進めた。

初回、四回と三振に終わった島袋。「みんなの士気を下げるプレーばかりだったから」と、この打席は絶対に三振せず、粘ろうと決めていた。前の打者、伊藤大将もエラーで出塁してお出し切れずに終わった。

試合終盤まで食らいつく、意地を見せたが、得点には つながらず後悔が残った。

試合の中盤、ベンチの雰囲気も沈み気味だったという。「投手をもっと支えたかったのにどうついた。八学光星・仲井監督「河野に完封され、「対策を立てたつもりだったが、力でねじ伏せられた」

八学光星・武岡主将「デイフェンスは満点だった。攻撃で自分たちの力を出し切れずに負けた」

デーリー東北新聞社提供